

# へきけんニュース

【ホームページ [https://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)】

👉 へき地教育に関するオンデマンド研修ビデオ・資料・フォーラム等のお知らせなどが豊富に掲載されています！

✉ kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学旭川校

## 令和6年1月20日 第23回へき地・小規模校教育推進フォーラム 「どうしたらいい？へき地・小規模校の 体育の教材・教具」を開催しました！ ～ 小規模校でもできる体育の授業について熱心に交流！ ～

北海道教育大学旭川校 教授  
へき地・小規模校教育研究センター センター員  
高瀬 淳也

へき地や小規模校での体育授業には、多くの課題があります。子どもたちの動きが多様化しない、教材や教具が不足している、合同体育の方法がわからないなど、先生方は悩んでいることでしょう。そんな先生方のために、1月20日（土）に「どうしたらいい？へき地・小規模校の体育の教材・教具」フォーラムが開催されました。このフォーラムでは、全国からへき地や小規模校で体育を指導する先生方や関係者が集まり、実践例や工夫を発表し、意見交換を行いました。参加者は150名以上と、昨年度に引き続きたくさんの方に参加いただきました。

フォーラムでは、4名のパネリストがそれぞれのテーマに沿って発表を行いました。



▲へき地・小規模校教育研究センター  
川前 あゆみ 副センター長による  
開会あいさつ



1 ▲パネリストのみなさん

## 少人数の良さを生かした体育の授業実践事例 ～ 鹿児島県奄美市立手花部小学校 吉峯教諭



吉峯 真太郎 教諭

鹿児島県からお越しいただいた奄美町立手花部小学校の吉峯先生は、全校15名の勤務校で行っているボール運動領域や器械運動の授業例を紹介しました。吉峯先生は、子どもたちに自分たちで考えて動くことを促すために、教材や教具を工夫したり、単元ごとに学習目標を設定したりしているというお話をされました。また、合同体育も必要に応じて行うものの、単元の流れや学習内容に応じて学級毎の時間と合同体育の時間を分けているというお話もありました。

## 小規模小学校の教員を活用した運動の場づくり ～ 北海道増毛町立増毛小学校 深井教諭

北海道増毛町立増毛小学校の深井先生は、小規模校で見られる「多様な動きが生まれにくい」などの課題に対して、「教師自ら手本を示す！」姿勢を大切にしながら、指導法をはじめ教材や教具を工夫して解決する方法を示していただきました。深井先生は、小規模校では人数が少ない分、同じような動きになりがちだと指摘しました。そこで、教材や教具を変えることで、子どもたちに新しい刺激や挑戦を与えることができると説明しました。また、他校の同学年の運動の様子を映像で見せ、それをもとに自分たちがどんな工夫ができるかなど、他校とのつながりを利用することでも、体育授業の質を高めることができるというお話もありました。



深井 幸恵 教諭

## へき地小規模校の体育における遠隔授業の可能性 ～ 北海道教育大学札幌校 中島教授



中島 寿宏 教授

北海道教育大学の中島先生は、ICTを活用した器械運動やベースボール型ゲームなどの実践を通して、小規模校だからできるICTの活用法について話がありました。その1つに、離島の中学校と札幌市内の中学校で行った遠隔合同授業は、「走塁」と「守備」の役割が行き来するベースボール型の授業の紹介があり、工夫次第で遠隔合同授業でもボール運動や球技領域は十分可能であると述べられました。また、遠隔合同授業では、授業中の課題解決に向けた対話的学習が促進されることも、データをもとに紹介がありました。

## ボール運動領域における教材・教具の開発 ～ 東海学院大学 竹内講師

岐阜県よりお越しいただきました東海学院大学の竹内先生は、ボール運動領域の教材・教具を開発について紹介いただきました。たくさんの動画を用いながら、何をねらった教材か、ゲームの面白さを保持させるためにどんなルールを取り入れるかなどの説明をいただきました。映像からは、子どもたちの歓声が多く聞かれ、夢中になって学習に取り組む様子が見られました。また、「打つ感覚」をつかませるためのバッティング用の教具は、参加者からも高い関心を集めました。



竹内 隆司 講師

発表の後には、質疑応答が行われましたが、時間が足りないほど活発な意見交換がありました。参加者からは、「実践的で参考になった」「教材や教具の工夫がすごい」「ICTの活用方法が勉強になった」などの感想が寄せられました。2時間という短い時間でしたが、へき地や小規模校で体育を指導する先生方の熱意と工夫が伝わる充実したフォーラムでした。



## アンケートに多く見られた合同体育について

事前の申し込みやアンケートの質問を集約すると合同体育に関して、学年差や能力差、子どもたちの特性などから、互いに学び合ったり教え合ったりする学習活動が難しい、合同体育でやりやすく有効な単元や方法、活動の工夫などを教えてほしいという内容がありました。

今回の4名のパネリストの内容などから考えると、学校規模に関わらず教え合ったり、伝え合ったりする場面は、それ以前に児童・生徒に知識や技能を指導し、ある程度身に付けさせておくことが大切です。学習指導要領に示されている各学年の知識・技能をまずは習得させ、それをもとに、教え合ったり伝え合ったりなどの「思考力、判断力、表現力等」の授業が展開されると、円滑に授業が進んでいくと思います。こう考えると、単元の前半は「運動に関心を持ち、自分の目標に向かって頑張る」という姿を目指し、単元の後半は「習得したことを伝える」ということが主になっていく単元の流れが良いかと思います。

ただ、複式学級でも学年が1名ずつの2名となると、「もう少し人数のいる中で学習させたい」と考えることもあると思います。合同体育を否定するわけではありませんが、吉峯先生の発表にもありましたように、合同体育であっても各学年に合わせた目標をしっかりと押さえて授業を行うことが大切だと思います。

また、バスケットボールやバレーボールなど種目をもとに授業を考えていくと、「3人しかいないから、バスケットボールができない」など、人数の壁にぶつかります。しかし、発想を変えれば意外に取り組みやすいこともあります。小学校学習指導要領解説体育編のp.97にある「ボール保持者と自分の間に守る人がいない空間に移動すること」ができることを目指すとなれば、ボール保持者、守備者、ボールを持たない人の3人でも学習は可能です。この3人のうちの1人を授業者が行えば、児童・生徒2人でも可能です。体育の授業では、「どんな動きを身に付けさせたいか」という視点で授業を計画していくと、少人数でもできることはたくさんあると思います。このような視点で、ぜひ実践に取り組み、情報提供いただけたらありがたいと思います。



## その他、アンケートより一部抜粋

- ◆ へき地小規模校での体育の実践や教材教具の工夫について、様々な先生方の発表を聞くことができた。
- ◆ 遠隔授業や学校間の連携など、ICTを活用した授業の事例が多く紹介され、小規模校のメリットを生かした授業づくりのヒントになった。へき地小規模校での体育の実践や教材教具の工夫について、様々な先生方の発表を聞くことができた。
- ◆ 中島先生の遠隔同期授業でボール運動を行うときに役割を抽出して学習することや、竹内先生の適正規模校で教材を開発するときの考え方が印象的だった。
- ◆ 吉峯先生のゴール型の映像をはじめ、表現や器械運動、運動遊びなど、小規模校でも実践できる教材教具が多く紹介され、次の授業で使ってみてみたいと思った。
- ◆ 深井先生が紹介されていた校内を活用した運動遊びの具体が気になった。スライドや写真などを参考にできたらと思った。
- ◆ 発表者の方々のスライド資料や写真などをデータで配布していただけるとありがたいと感じた。
- ◆ へき地における教材やへき地の良さについて深く学ぶことができた。へき地に勤務する機会があれば、今日学んだことを活かしたいと思った。
- ◆ 今後、北海道の教育現場においては、へき地・小規模校における取組みを核に、個を大切にした個別最適化の学びが発展していくであろうと予想します。今回のフォーラムは、参加者が将来への期待を持てる、充実した内容であったと思います。何より、人と人がつながることで生まれる価値や、テーマについての共通理解、実践者として多様な専門性や経験を持つメンバーが連携することで生み出される可能性を感じました。

へき地・小規模校の特性をプラスに生かした授業づくりは可能！

フォーラムは大変な盛会のうちに終わることとなりました。  
たくさんのご参加ありがとうございました。

